

礼拝

令和5年10月30日
4号



因果志報 (いんがおうほう)

よい報いはよい結果にあり、
よい結果はよい原因にあり。

十月も今日を含め、あと二日となりました。約一ヶ月後には、二期期末考査が始まりますので、計画的に準備を進め、よい結果に繋がられるようにがんばりましょう。

さて、皆さんも一度は聞いたことがあると思いますが「因果応報」という言葉があります。この言葉は、仏教の教えを表すものですが、一般的な使われ方を見てみると、人を騙したり嘘をついたり不正をした結果、それがばれて「因果応報だ」といった具合です。「今の悪い状況や苦しい状況は、自分の悪い行いのせいである」という意味で強い言葉なのですが、本来は悪い結果に限らず、善い結果が自分に返ってくることも「因果応報」なのです。つまり「善いことも悪いことも、自分の身に返ってくる結果のすべては自分が作っている」ことを教えているのが「因果応報」という言葉の本当の意味なのです。因果とは原因と結果のことで、何か結果が生まれるには、必ずその結果に至る原因があるという事です。また応報とは結果に応じた報いが現れることをいいます。

SF作家の星新一さんは、ショートシヨートの第一人者で、千編を超える作品を生み出しました。シヨートシヨートとは、短編小説よりもさらに短い小説のことで、手軽に短時間で読むことができ、しかしながら綿密に計算されたオチが魅力的な小説です。作品の中には、現在の私たちが直面しているさまざまな問題を予見していたかのようなものもたくさんあります。その一つを因果応報という観点から紹介します。

『おーい でてこーい』
台風が過ぎ去った翌日、ある村で起こった崖崩れのために小さな社が流された。その下からとても深く大きな穴が現れた。穴の底は暗くて見えず、村人が「おーい、でてこーい」と叫んでみたり、小石を投げ入れてみたけれど、何の反応もない。科学者や新聞記者が調査に来たが、誰にも解明できない。結局「何を捨ててもよい穴」としてゴミ捨て場にする事になった。いくらゴミを捨てても全く埋まる心配はない。人々の捨てるごみは段々エスカレートし、家庭からの大量のごみ、企業の機密書類、産業廃棄物、あげくには放射性廃棄物まで……。穴は都会の住民たちに安心感を与えた。次々と生産することばかりに熱心で、あとしまつに頭を使うのは、だれもがイヤがっていた。この問題も、穴によって少しずつ解決していった。とにかく人間が作ったあらゆるゴミというゴミが捨てられた。それでも穴の底はまだ見えない。やがて都会にはごみが無くなり町は美しくなった。

美しくなった都会には次々と新しいビルが建築された。建築中の高層ビルで「おーい」という声を聞いた。その声を見た空を見上げたが、空には何も無い。気のせいかもしれない。作業員をかすめるように小石が落ちてきたが、彼はゴミがなくなっただけで美しい都会の風景を眺めていたので、小石には気がつかなかった。

環境問題に目を向けたこの作品は、今から七〇年も前の一九五八年に書かれましたが、現在進行形の諸問題をまるで見つけたかのような作品です。自分たちが行った行為が、そのまま自分たちに返ってくるという見方をすると、まさに因果応報の教えを私たちに伝えてくれているように感じます。自分の人生は自分の一日一日の積み重ねです。いい報いが受けられるように日々を過ごしていきましょう。